

男女共同参画社会

を考える情報誌

ききょうフォーラム通信



7/19
開催

「絵本の読み聞かせから ワーク・ライフ・バランスを考えよう」

男女共同参画講座の内容と受講者の感想を紹介します。

講座の内容

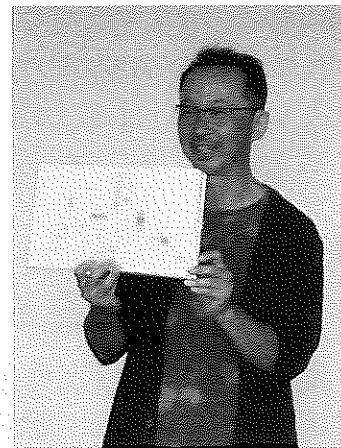
「植物に学ぶ」というキーワードからお話が始まりました。

講師は、「一般社団法人マタニティ期から絵本読みきかせ推進協会」の絵本専門士で、自然力畑実践指導者でもある、横田 敬一 さん。

農業で植物を育てることと、人（こども）を育てることは、とても似ていると言います。例えば、植物は、適地・適時に合わないとう生育不良となりますが、人も、環境が合わないとうストレスを感じます。

また、絵本の読み聞かせを通して、こどもの動き（様子）を尊重し、感じていること、考えていること、すぐには反応（効果）が出ないかもしれないけれども、成長を信じて待つことを「待ちよみ」と呼んで、「生きる力」を育てています。

性別の区別なく、特徴・特性を認めたうえで、相手の話を聞き、その話を理解し、行動を選択できる社会になるべきではないかと、講義を締めくくりました。



受講した男女共同参画サポーターからの感想

読み聞かせに些か自信あり、講座参加しましたが、全くの認識錯誤でした。

私のは「憑依型（笑）」で、出てくるキャラに成りきります。こどもたちも「キャ〜！！」とか言って喜びます。

が、読み聞かせは然に非ず。本を開いたら説明はせず、眺めさせる。自然に自分のままで余計な脚色せずに聴かせる。こどもが見たまま、感じたままを尊重する・・・待ちよみ

カウンセリングと相通ずる処あるな？と独り言ち。推奨図書を買ひ漁りました。（Tさん）

「待ちよみ」という言葉に興味を持ちました。子育てというのは、とかく「こうしなさい、ああしなさい」と指図をしています。絵本を読むときにも、自分の価値観を押し付け「お花がきれいね」「くまさんは、怖いね」など自分の感じたことを言ってしまう。

自分自身を振り返ると、こどもの感性を大切に、自分から発する言葉を大切にすることを忘れていました。

親（おとな）以上に可能性を秘めていることも、自分からやってみて成功体験を得ることが大切です。自分で考え、自分で行動する力を育てたいと思います。そのために親（おとな）ができることは、こどもが育ちやすい環境を整え、こどもに寄り添うことです。

互いを認め合い、生きる力に満ちたこどもたちが育っていくことを願っています。横田さんのお話から気づくことができました。（Sさん）



裏面に続く

講座内で読み聞かせされた絵本

『女と男のちがいは？』 あかね書房

文 プランテルグループ

絵 ルシ・グティエレス

訳 宇野和美

『しろとくろ』 講談社

作 きくちさき

トピックスでは、相談窓口を紹介しています。ぜひ、お知り合いにもお知らせください。